

小江戸川越散歩報告(2023年10月22日(日))

「ビスターリ」として2019年に実施計画されたが、台風の直撃により中止となった案件が、今回実現することになった。参加を表明された方は浮津さん、中島さん、柳澤さんのお三方だった。晴れ女が参加されるので、天候(特に台風)の心配はなく、当日は少し冷え込んだが快晴の日和となった。

西武線“本川越駅に9時に集合”としており、少し早めに西武本川越駅に着いたが、間もなく浮津さんが現れて、柳沢さんから電話があり、「西武本川越駅から今川越駅に来ている」とのご連絡をいただいた。わざわざ川越駅まで移動されたのだ、直ぐ本川越駅の方にお戻りいただいた。しかし、中島さんが現れない。中島さんは大宮から川越線で真っすぐこちらに来られるので、久しぶりに参加されるのだろうと考えていたのだが。ところが電話番号が分からない、何とかしてようやく電話してみると、ご本人は寝耳に水といった感じで、全く参加のご意志がない(否無かった)とのことだった。

何やかやで遅れて9時25分に本川越駅前を出発、約10分で「どろぼう橋」という小橋を渡って9時40分「仙波東照宮」に着いた。小高い築山の上に建ち、以前には門が閉まっていたが、幸い今日は開いている。「拝殿」でお参りしたが、その奥に建つ「本殿」までは入れなかった。

境内の続いている「喜多院」に向かう。正面の「慈恵堂」(本堂)を拜んでから、「客殿」に向かう。「客殿」、「書院」には「家光誕生の間」とか「春日局の化粧の間」などがあるが、これは第3代家光公の命で、江戸城から移築再建されたものである。また近くの「五百羅漢」は皆顔が異なるそうだ。また中には、「十二支」の動物を抱いた羅漢さんがいるそうだが、“犬”きり見つけられなかった。

10時35分出発、ここから「川越城本丸御殿」前を通って、縁結びの神様の「氷川神社」へ向かった(11時着)。今日は快晴で日柄が良いせいか、“結婚式”に会い、巫女さんに先導された新郎新婦が本殿に進むのを祝福した。まだ10月だが七五三の着物・袴姿の男女の子供たちと両親が見られた。「縁結びの神」なので、本殿脇の鳥居のトンネルの間に、色々な願い事を書いた絵馬がこれでもかという位にぶら下っていた。

11時15分ここを出て、「札の辻」を通って、11時35分「菓子屋横丁」に着いた。昔ながらの菓子屋や新しい形態の菓子屋が並んでいる。ここも観光客で溢れていた。

11時45分、「川越まつり会館」へ行く。“川越まつり”は10月の第3土・日曜日に開催される氷川神社の例大祭だ。高さ8mにもなる山車が15~20台町中を練り歩くと、この山車は電線をくぐるために頭部を下げるごとと、道路の角を曲がり易くするために、上部が回転できるような独自の構造になっている。今では「蔵造りの街通り」など電線の地中化を完成した道路が増えているので、楽にはなっているのだとか。四つ辻で山車どうしが出遭ったとき、互いに避け合うのを、「曳っかわせ」(山車を曳き、衝突を躲す)と言い、この時は大いに盛り上がるそうだ。館内部に2台の山車が展示されていたので、これで祭気分に入ることができる。

会館の前が「蔵造り通り」だ。目の前に国重要文化財:「大沢家住宅」があった。袱紗、扇子、民芸品などの小物を売っているが、厚かましくお店の中を見せて戴いた。柱、梁などは太い檜材が使用されており、柱は太さ25cm位ある立派なものだ。すぐ近くの露地奥に国登録有形文化財:レストラン「太陽軒」がある。丁度露地で休憩していた人力車夫のお兄さんに訊いて、訪ね宛てて行った。外観はあまりぱっとしない真四角の建物でステンドグラスが目立つ程度だったが、『国登録有形文化財』の登録標が輝いていた。

裏側から川越市のシンボルである「時の鐘」へ向かう、1日に4回鐘を撞くのだそうだが、聞くことはできなかった。「蔵造り通り」の道に戻る、道路の両側には人が溢れている。また蔵造りの家が軒並み続いている。人をかき分けながら駅方向に向かう。途中“三つ葉葵”の「蓮馨寺」(れんけいじ)、「川越熊野神社」などを通り過ぎ、13時10分に本川越駅に着いた。

隣接するビル内の「サイゼリア」に腰を落ち着けて、今日の散歩は終わった。各々好みの飲み物で喉をうるおし、昼食を摂りながら反省、歓談をした。今日の反省点は2点あり、“集合場所を明確にする”と“連絡方法の確認”だった。そのほか今検討されている今後の山行案などの話をした。興味があったのは浮津さんのガンの話(山とは関係ないが)で、「胃がんはピロリ菌によることが多い、膵臓がんはMRIで見つける、ガンは広くても浅ければよいが、深くなると大変だ……」。15時に店を出て、本川越駅で解散した。

以上 陽田



喜多院 (慈恵堂)



「時の鐘」

